**博物館情報メディア第8回**

日本におけるテレビ番組のアーカイブについて、現状は次のような状況です。

* NHKを含む日本のテレビ局は、古い時代の番組保存に関しては十分な配慮をしていなかった。
* テープメディアの導入以前には、生放送番組の保存がほとんど行われず、ビデオテープ導入後もコストの問題からすべての番組を保存することはできなかった。
* 1981年以降、NHKがテレビ番組を一元的に保存する仕組みが整備され、データベース化された番組情報が検索可能となった。2003年には大規模な保管施設「NHKアーカイブス」が建設され、番組や関連資料の保存が進められている。
* 近年では、NHKの放送システムがビデオテープからファイルによる送出に切り替わり、放送とアーカイブ化が一体的に行われるシステムが完成している。

問題点としては以下のような点が挙げられます。

* 過去の番組保存の取り組みが不十分で、一部の番組や生放送番組が保存されていない。
* テープメディアからファイルへの変換作業が進行中であり、すべての番組がまだ完全にファイル化されていない。

理想や打開策としては、以下のような方向性が考えられます。

* 過去の番組や生放送番組も含め、できる限り多くの番組をファイル化し、デジタル化することで、長期的な保存と活用を図る。
* 技術の進歩に合わせて、定期的なフォーマット変更やデータの移行を行い、情報の読み取りやアクセスの障壁を低く保つ。
* 保存と活用のバランスを取りながら、デジタルアーカイブ化が進むことで、将来の世代にとっても有益な資源となるようにする。